

# 碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可  
神奈川 碩心会 発行

現在 会員数  
173名  
10月 地区名  
296名  
10月 地区名  
55名  
60年 (合計) (524名)

60年10月号 (159号)  
発行 者 萃 岳  
根 岸 岳 集  
編 村 愛 岳  
中 村 愛 岳

## 私と葉山と詩吟

宮本明山

湘南の地葉山町長柄を私達の終焉の地と定めましたのは約十五年前のことでした。当時横浜市神奈川区に住んでおり、環境もよく、下町風の住みよい所でした。ところが我が家の真南に三階建のビルが建ち、燦々と降り注ぐ太陽の光も遮られ、暖国が一変して寒国に変わってしまいました。楽しかるべき老後の生活に光明を奪われ、止むなく土地捜しにかゝり、暖かな、南傾斜の緑の多い閑静な所と、贅沢な条件ですが、ほほ満足な所として見つかったのが葉山町長柄のイトーピア団地でした。

勤務の関係や諸般の事情で十年程建てる事が出来ませんでした。其の間、お世話になる長柄部落を見て廻り、又森戸海岸、長者ヶ崎等を何回となく訪れ、富士を背景に、絵の様な素晴らしい景観に接し、この様な美しい町の住民になれるのだと思ひ、妻と喜びを語り合つたものです。

私達夫婦は農家出身の為、田圃のある長柄に殊の外親しみを覚えました。春先苗代作りの頃散策にきては、休耕田に出ている芹を断りもなく採らせていたゞいたり、或

る時は持ちきれない程、露を沢山いたゞいたりしました。そんな折お年寄りの方から昨今の農業の状況を聞いたり、逗葉新道開通に際しての住民の悲喜交々の話を聞き、農家の悩みを知る事が出来ました。

いよいよ五十六年六月、待望の家が建ち葉山の住民としての第一歩を踏み出しました。陽がよく当り、南に逗葉新道を隔て、上の山の移り変わる景色を目の前に見る事の出来る嘗て経験したことのない環境の中にいる私達でしたが、日が経つに従い、何か気分がすぐれず、うつうつたる日を過ごすようになりました。横浜での生活と違って、近隣との話合いもなく、趣味として習っていた詩吟の会もなく、愚痴をこぼす相手もなく、妻が一番堪えきれずノイコーゼ気味になってしまいました。そして妻と相談の上、外に出て語らいの場を見付ける事だと思ひ、詩吟の教室を捜すことにしました。

以前お世話になった家を探ね、長柄会館を教えていたゞき、夜の部へ入会を申し込みました。そこで最初にお逢ひしたのが、舟渡舟風さんでした。親切に相談のつて下さり、私達夫婦は竹石先生に特訓を受けました。引越をして三ヶ月目の九月でした。熱心な先生の教えと、先輩の皆様の温かいお付合により、私達の気分も雲の晴れる如

く、爽やかな日々を送れるようになりまし  
た。

満四年を経た今日、県本部大会に、温習  
会に、又初吟会にと参加させていたゞき、  
思わぬ所で思いもよらぬ知人と逢う事が出  
来ました。五十年前も前にお世話になりなが  
ら御無沙汰しておりました一色の伊藤明風  
さん御夫妻です。御主人とは同郷で、海軍  
の先輩だったのです。その御夫妻が詩吟を  
やっていると夢にも思わず、まして奥様  
が先生であったとは、まったく驚きました。  
私達夫婦も其の後度々御伺いして雑談に興  
じ、又詩吟を勉強させていたゞいておりま  
す。又折にふれ会長様始め諸先生方や、先  
輩の方々とご挨拶を交す事も出来、私達の  
喜び、これ以上のものではありません。  
然し私達の詩吟は「昇段すれど吟進まず」  
で甚だ恥ずかしい次第です。音痴の私とし  
ては、吟の進歩は遅くとも、楽しく語らい  
の出来る皆様と共に、碩心会の一員として、  
力強く老軀に鞭うって精進して参りたいと  
思っております。今後共一層の御指導と御  
鞭撻をお願い申し上げます。



## 秋の行事予定

- ◇ 県本部  
指導者講習会  
十月十三日(日)  
平塚農業会館
  - ◇ 第19回葉山町文化祭  
詩吟詩舞の会  
十一月三日(祭)  
葉山小学校体育館
  - ◇ 第35回逗子文化祭  
詩吟詩舞発表会  
十一月十七日(日)  
逗子図書館ホール
  - ◇ 県本部高段者(七・八段)  
審査課題講座  
十一月十七日(日)  
平塚農業会館
  - ◇ 碩心会  
葉山地区温習会  
十一月二十三日(祭)  
葉山小学校体育館
  - ◇ 県本部高段者(皆伝以上)  
審査課題講座  
十一月二十四日(日)  
平塚農業会館
- 県大会 合吟コンクール入賞  
堀内・F組十名の方が右会に於て五位入  
賞されました。小さなお子様のいられる方、  
又遠方会場で何かと大変だったと思います。  
御苦労様でした。

## 奥伝合格 (十月一日付)

おめでとうございます

小峰恵風 高橋華風 葉狩明風  
木野元明風 唐鎌正風 大屋正風  
嶋村幸風 鈴木尚風 鈴木芳風  
隈園晴風 三壁照風 武藤薫風

秋を訪ねて

## 鎌倉散策のお誘い

どこからともなくきんもくせいの香りが  
たゞよってきて秋たけなわの候となりまし  
た。鎌倉の秋をみつけに出かけてみません  
か。

(と き)

10月23日(水) 雨天の場合28日(月)

(集 合)

鎌倉駅西口(裏駅) 十時

(主 な コー ス)

江の電鎌倉駅⇨長谷駅下車⇨収玄寺⇨長  
谷観音⇨光則寺⇨大仏⇨甘繩神社⇨長楽  
寺跡⇨吉屋信子記念館⇨和田塚⇨六地藏  
⇨鎌倉駅西口⇨解散  
昼食持参・軽装で御参加下さい。

教場だより

### 松和支部 茅ヶ崎教場

九月十三日(金)、このところ会員減少気味の松和支部へ、叱咤激励の意味で根岸会長が稽古日に行かれるということで、私は取材を目的に同行させていたとききました。

根岸会長運転の車に同乗させていたとき海沿いの国道を走れば、さして混雑もなく葉山からもそんなに遠いとは思われず七時前に教場のある県立茅ヶ崎青少年会館に着。会館は国道沿いの磯馴松に囲まれた広々とした敷地の中にあり、潮鳴りの音が聞えるような感じがした。

二階教場に入ると、担当の下條亮岳先生、武井桃泉さん、武藤薫山さんの顔がみられまず審査の近い武藤さんが根岸先生の指導のもと、審査課題を次々とこなされてゆきました。お年を伺って、体、声共にお若いのにおそれいました。木村松風、加藤杉風、田中宗風、高島久風、菊地笑山、重田敬風、長田照風さん達の勢揃いしたところで、根岸会長指導による「嗚呼忠臣楠氏の墓」を声高らかに合吟、「符号」の書き方の説明「書取り」の質問等あり、最後に奥伝課題である「大楠公」の合吟でしめく

りました。ひとりひとりの吟をお聞きするのを楽しみにしておりましたが、時間の関係で聞かれず残念でした。

そのあと皆さんの紹介等あり、根岸会長からは会員増加のハッパをかけられました。私は経験上もつと女性をふやせたらと思います。女性っておせっかいやきですものネ。それに世の中やっぱり男と女がいて楽しく、きつと教場も楽しくなり、会員増加につながるのではないかと私なりに思います。下條先生はじめ、会員の皆様がんばって下さい。(愛岳)

### 俳句

根岸 岳萃

朝顔の いきいきと群れ出勤す

百日紅の おもたげにふれ暮まねく  
うれしさを 花火にうつす童らの貌

白井 寿風

流燈の はなるゝほどに明滅す

法被<sup>ほつび</sup>など 洗ひ納めて祭り終へ  
鐘撞けば 白萩の風移りゆく

(中国吟行) 後藤 道風

仏灯の 反り炎昼の雲わきぬ

牛追ひの 男の歩み秋暑し  
めがねふき 玉の汗ふき六和塔

### 吟こそ長寿への芸術

—医学からみた吟の健康への効用—

(吟詠生活・十の功德)

吟詠には限りない功德があるが、特に吟呼吸の健康への効果はだいたい次のようにまとめられる。

- 1 心臓が丈夫になる。
- 2 肺臓が強靱になる。
- 3 血液循環(血行)がよくなり、毛細血管末端を含めて、全身まで血液栄養がゆきわたる。
- 4 消化器官、特に胃腸が丈夫になる。
- 5 補肝作用が充足され、その結果肝臓が丈夫になる。
- 6 排尿が適正に保たれ、腎臓を疲れさせない。
- 7 便通がよくなり、欠することがない。
- 8 疲労が全身的に取り去られる。
- 9 頭痛はなくなり、また、新しくおこることはない。
- 10 肉体の各器官や組織が若返る結果、当然のことながら寿命がのびる。

(寒河江吟友会報より転載)

# 練吟メモ

○前号で、漢文から書きくだし文までの過程のあらましを、お話ししました。そこで失礼ながら、問題を出しますので答えてみてください。答えを書いてから、教本を見て確かめていただきます。送り仮名は、教本の平仮名を、そのまま片仮名に直して、漢字の右下に小さく送ればよいのです。

○(問) 次の詩文に、訓点と振り仮名をつけなさい。(六段までは1を答えれば可)

1 少年 易老 学難成 (教一・一〇七)

2 此福人間得(難) (三一九五・風号以上)

3 衆芳難与儔 (东湖・正気歌・七段以上)

○右の問題でお分りのように、何回も練習したはずの詩文でも、書きくだし文ばかり読んでいると、何年やっても漢文は理解できないうし、一番よくないことは、誤った読み方をしていることです。これは大変困ったことでもあるし、恥かしいことです。

○紙数の関係上、答の中の重要な点だけを抜き書きます。

(答(説明))

1 少年 易老 学難成

※易(やすし)に対して難(かたし)の語がある。漢文の定形で、「難」の字の下

に動詞(補足語)がつく場合(ここでは「成」を指す)これを連続といひ、難(を(がたし)と鼻濁音で読む。

2 得(う)難(た) (旧教本はルビの誤植)

※「難」が、下に動詞がつかないで独立している場合、これを単読といひ(かた

かるべし)と澄んで読むのが、正解。

3 難(が)与(と)儔(と) 又(は) 難(が)与(と)儔(と)

※与儔は(とても仲間にはならない。ここでは、くらべものにならない)という意味なので(ともにたぐいがたし)と読む方が適當。ついでながら、後者を書き

くだし文にすると(与に儔し難し)となるので、吟詠のさいは(与ニ儔シ 難シ)

が正しく、(与に儔 し難し)は誤りです。くどくなりませんが、難の読みは(か

たし、又は、がたし)であり、決して(しがたし)とは読まないことに注意して

ください。

原稿を書いていたら、突然つきあけるような震動に年甲斐もなく大さわぎ。五十六年振りの震度5とテレビがしきりに報じている。今年の夏のあまりの暑さにボケーツとしていたら、こゝのところがあれもこれもと秋の行事に追われて大忙し。そんな中で書きあげた10月号「頑心」です。(十・四)

## (移籍・住所変更)

388 高橋之子 銀詠支部より真澄支部へ  
住所久木六一七七七を六一六一二に

## (入会)

711 阿部桂子 葉山町一色八六八七

(一色A) (電)〇四六八七五〇七五七八

712 渡橋サヨ 葉山町堀内二九八

(諏訪) (電)〇四六八七五〇一〇三六

713 吉岡一郎 横浜市磯子区磯子四一三三

(大船B) (電)〇四五七五〇一〇〇九

714 大家恭子 逗子市池子二二六一一八

(逗子A) (電)〇四六八七七一〇三三四

715 前田武司 横浜市旭区鶴ヶ峯二一四八一三

(横警) 警察公舎二一四〇四

716 袴田政子 葉山町木古庭一四二三

(堀内・F) (電)〇四六八七七一六八二二

717 村上雅子 葉山町上山口一八七八一七

(堀内・F) (電)〇四六八七七八一八六七

412117 浅沼翠風(桜山A) 295大場芳山(桜山B)死亡

若林翠泉(堀内・E)

総務部から退会届を受理して、名簿の氏名を赤線で消してゆくと何とも胸が痛みます。頁をめくると赤線のひかれたあの人、この人の顔、思い出が浮かぶのです。皆さんがんばりましょうね。